

Tutorial:

# Fujipress Journal LaTeX クラスファイルの使い方 (*fujipressarticle.cls ver1.7*)

## Fujipress Editorial Office

Fuji Technology Press Ltd., E-mail: webmaster@fujipress.jp, <https://www.fujipress.jp/>

[version 2024/05/31]

このガイドは、富士技術出版発行の論文誌 JRM, JACIII, JDR, IJAT 用のクラスファイル *fujipressarticle.cls* のチュートリアルです。

## 1. まえがき

このクラスファイル (*fujipressarticle.cls ver1.7*) は、富士技術出版株式会社発行の論文誌に掲載される論文を作成するために専用の class file として作成されたものです。LaTeX2e を対象としています。このクラスファイルは当社論文誌の組版体裁に従って調整しますので、クラスファイルの変更は一切しないでください。

LaTeX2e 用のクラスファイル:

*fujipressarticle.cls* 論文用クラスファイル  
*fujipressfont.clo* クラスファイルに付属するファイル

補助用の *fujipressfont.clo* は、*fujipressarticle.cls* が正常に働くため必要ですので *fujipressarticle.cls* と同じフォルダー内においてください。

### 1.1. このガイドの構成

2 章ではそれぞれ英語の論文の原稿のため定められている書式と固有の注意点について述べます。4 章は図表の注意で、ファイルの取り込みに関する規定などを述べます。5 章は数式に関する注意です。7 章は参考文献に関する注意点で、最後の 8 章は提出するファイルに関して述べます。

## 2. 英語論文の形式

投稿される場合にはクラスファイルとして *fujipressarticle.cls* を使用してください。投稿される雑誌の略号を **Table 1** から選び、オプションとして [] 内に指定してください。

原稿種については **Table 2** に示した種類の中から選び、オプションを指定してください。

例えば、Journal of Robotics and Mechatronics, paper の場合、次のようになります。

```
\documentclass[JRM,paper]{fujipressarticle}
```

Table 1. 論文誌と略号

論文誌名	略号
Journal of Robotics and Mechatronics	JRM
Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics	JACIII
Journal of Disaster Research	JDR
International Journal of Automation Technology	IJAT

Table 2. 原稿種とオプション名の対応

原稿種	オプション名
Paper	paper
Research Paper	researchpaper
Technical Paper	technical
Review	review
Letter	letter
Report	report
Development Report	development
Survey Report	survey
Note	note
Material	material

### 2.1. 原稿の書き方

原稿の全体構成は、このガイドの最終ページの原稿の校正 (例) をご覧ください。

#### \* コマンドの意味と用法

```
\title{English title}
```

タイトル (英語) を書きます。前置詞、接続詞、文中冠詞等を除き単語の先頭文字を大文字にします。タイトル中に改行\\を指定すれば、タイトル中で改行できます。

```
\author{著者名のリスト}
```

```
\author{First author, ..., and last author}
```

のように著者名のリストを書きます。  
所属が異なる異なる著者がいる場合には、対応を付けるために著者名のあとに

```
\author1$^*$, and author2$^{**}$
```

のように asterisk 記号を上付きでつけてください。  
全員が同じ所属であれば必要ありません。また、最後の著者の前には“ , and last author ”としてコンマも忘れないでください。

```
\address{アドレスのリストと e-mail address}
```

のようにして、著者の所属と住所、E-mail address を書きます。複数の著者が異なる所属である場合には \author で定義した asterisk 記号を以下のように入れてください。

```
\address{%
  $^*$Fuji Technology Press Ltd.,
  Ichigo Otemachi North Bldg. 2F\\
  1-15-7 Uchikanda, Chiyoda-ku,
  Tokyo 101-0047, Japan\\
  E-mail: webmaster@fujiPress.jp
  $^{**}$ (2 番目のアドレス)
  ... }
```

```
\markboth{ヘッダー著者名}{ヘッダータイトル}
```

ヘッダーに出力する著者名とタイトルを定義します。  
姓と名の頭文字の間にコンマを入れてください。著者が 3 人以下の場合は以下のように書きます。

```
\markboth{Tanaka, K. and author2}{title}
```

著者が 3 人を越える場合は、1st author のイニシャルのあとに“ et al.” を付けてください。

```
\markboth{Tanaka, K. et al.}{title}
```

タイトルは基本的には ¥title で指定したものと同じですが、改行などの微調整をすることができます。  
JRM または JACIII に投稿される場合は 90 文字程度に縮めてください。

```
\pagestyle{fujiPressarticle}
```

fujiPressarticle ページスタイルを読み込むために必要ですので必ず指定してください。

```
\maketitle
```

fujiPressarticle フォーマットでタイトルを出力します。

```
\begin{abstract} ~ \end{abstract}
```

アブストラクトを書くための環境です。

```
\begin{keywords} ~ \end{keywords}
```

keyword を書くための環境です。各 keyword は以下のようにコンマで区切って半角のスペースを空けてください。keyword は 5 個までです。keyword は基本的に小文字で入力してください。

```
keyword1, keyword2, keyword3
```

```
\acknowledgments
```

謝辞があれば、\acknowledgments の次の行に記述します。

### 3. ヘッドライン (見出し)

タイトル、セクション、サブセクションなどの見出し中の最初の一文字は大文字にします。尚、前置詞や接続詞、冠詞は大文字にしません。

### 4. 図表

図表の出力位置は原則として上に集めています。図のキャプションは図の下に、表のキャプションは表の上に書いてください。

```
\begin{figure}[t]
  \centering
  \includegraphics[width=5cm]{./fig/fig.pdf}
  \label{fig1}
  \caption{図の説明文...}
\end{figure}
```

```
\begin{table}[t]
  \centering
  \caption{表の説明}
  \label{table1}
  \renewcommand{\arraystretch}{1.2}
  \begin{tabular}{lcr}
    \hline
    (表の内容)
    \hline
  \end{tabular}
\end{table}
```

取り込みが可能な図の形式は pdf, png と jpeg ファイルです。png や jpeg などのラスター画像について解像度は 300~450ppi が適しています。取り込みには graphicx パッケージをお使いください。プリアンブルに下記の記述を追加してください。

```
\usepackage{graphicx}
```

図のファイルは、ソースファイル(tex ファイル)を置いているフォルダーの下に fig というサブフォルダーを作成して保存してください。フォルダー構造については、8. ファイルの提出で詳しく述べます。

図や写真の取り込みについてのその他の注意点です。線画は、文字の大きさや線の太さが、本文の文字の大きさとバランスが取れるような大きさと取り込んでください。写真およびスクリーンを多用した編状のパターンは著者のプリンタと印刷会社の機器の解像度の違いなどによって、黒くつぶれたり、意図しない線が見える場合があります。

図表の番号を本文で参照する際には

```
段落冒頭の場合 \textbf{Figure 1} \textbf{Table 1}
段落中の場合   \textbf{Fig. 1}   \textbf{Table 1}
```

のように \textbf を用いてください。

## 5. 数式

アメリカ数学会(AMS)のAMS-TeXパッケージ(*ams-math* および *amssymb*)を使用しています。数式は文書の幅をはみ出しやすいので、特に注意してください。

## 6. %や°Cについて

American English format で使用される“closed style”に従って、数値と%や°Cの間は詰めて記述してください。

パーセント： 10%  
 度(degree)： 10°C  
 地理座標： N 35°21'14”

## 7. References (参考文献)

### 7.1. BibTeX を使わない場合

本誌の**\bibitem**の記述は以下のとおりです。出来る限りdoiの記述もお願いします。doiは文献の最後にご記入ください。

```
\bibitem{jrm:86} A. Author et~al.,
  ``Title of your paper,`` J. Robot.
  Mechatron., Vol.0, No.0, pp. 00-00, 20XX.
  \url{https://doi.org/10.20965/jrm.0000.p00}
```

掲載順は、本文中での引用順です。文献を複数引用する場合、[3][4]、[3][4][5][6]の様にせず[3,4][3-6]のようにまとめてください。

プリアンブルに `\usepackage{cite}` と記述して *cite package* を使用しますと、

```
\cite{ref:1,ref:2,ref:3}
```

のようにすれば [1-3] と表示されます。

### 7.2. BibTeX を使う場合

原稿作成時には、*fujipressbib.bst* を指定して下さい。参考文献の所定の箇所に

```
\bibliography{refdata} %filename of .bib
\bibliographystyle{fujipressbib}
```

と指定します。*fujipressbib.bst* はテンプレートファイルと同階層に保存されています。

データベースファイル(*refdata.bib*)の例を下記に示します。

```
@Article{jrm:86,
  title   = {Title of your paper},
  author  = {A. Author et~al.},
  journal = {J. Robot. Mechatron.},
  volume  = {0},
  number  = {0},
  pages   = {00--00},
  year    = {20xx},
  doi     = {10.20965/jrm.0000.p00}
}
```

```
@Book{tex:1,
```

```
  title={LaTeX 2e for WINDOWS},
  author={Y. Otohe, and S. Eguchi},
  year={1997},
  publisher={Soft Bank Company}
}
@Online{jrm:24,
  title={IJAT Website},
  url={https://www.fujipress.jp/ijat/},
  urldate={May 1, 2024}
}
```

## 8. ファイルの提出について

ここではファイルの提出の際の注意点を挙げます。原稿のTeXファイルは、メインのファイルに**\include**または**\input**するのではなく、必ず1本にまとめてください。著者独自のマクロは原則として使わないでください。必要やむを得ない場合には使ったマクロのコンパイルに必要なソースコードを必ず添付してください。

一般サイトにないパッケージを使用したときは必ず原稿と共に使用したスタイルファイルを添付してください。ただし、最終組版の段階でそれらパッケージが使えなくなることもあります。特殊なパッケージを使用される場合は十分な配慮をお願い致します。

BibTeXをご使用の場合は、*bib*ファイルおよび生成される*bbl*ファイルも必ず添付してください。

提出すべきファイルには以下のようなdirectory構造を作ってください。ソースファイルを置いたdirectoryの下にfigというsubdirectoryを作成して、その中にpdf, png, jpegなどの画像ファイルを配置してください。

- tex ソースファイル (main directory)
- pdf, png, jpeg などの画像ファイル (/fig/内)
- bbl, bib ファイル (必要な場合) (main directory)

原稿および図などのファイルの提出に関しましては富士技術出版株式会社ホームページにある各論文誌内の「著者の皆様へ」にも記載がございます。

## 9. その他

使用される画像につきましては、解像度を適宜調整させていただきます。

画像ファイルとしてpdfを推奨いたしますが、epsfigパッケージを使用することによりepsファイルも取り込みができます。

```
\usepackage{epsfig}%プリアンブルに記述
\epsfig{file=xxxx.eps,width=90mm}
```

投稿時には下記のコマンドは入力不要です。論文が採録されて、掲載号が通知されたのち正しい巻と号やページ番号を指定します。

```
\setcounter{page}{page number}
\SetVolume{volume}
```

```
\SetIssueNo{issue number}  
\SetPubYear{publication year}  
\dates{2000/00/00}{2000/00/00}
```

## 原稿の構成 (例)

```
\documentclass[JRM,paper]{fujipressarticle}
\usepackage{graphicx}
\usepackage{epsfig}

\begin{document}
  \pagestyle{fujipressstyle}

  \title{英語タイトル}
  \author{ローマ字著者名一覧}
  \address{ローマ字読み address}
  \markboth{header 出力の著者名}{header 出力のタイトル}
  \maketitle

  \begin{abstract}
    (abstract)
  \end{abstract}

  \begin{keywords}
    (keywords)
  \end{keywords}

  (原稿の内容)

  \acknowledgments
    (acknowledgments)

  \begin{thebibliography}{??}
    \bibitem{}
    \bibitem{}
  \end{thebibliography}

\end{document}
```